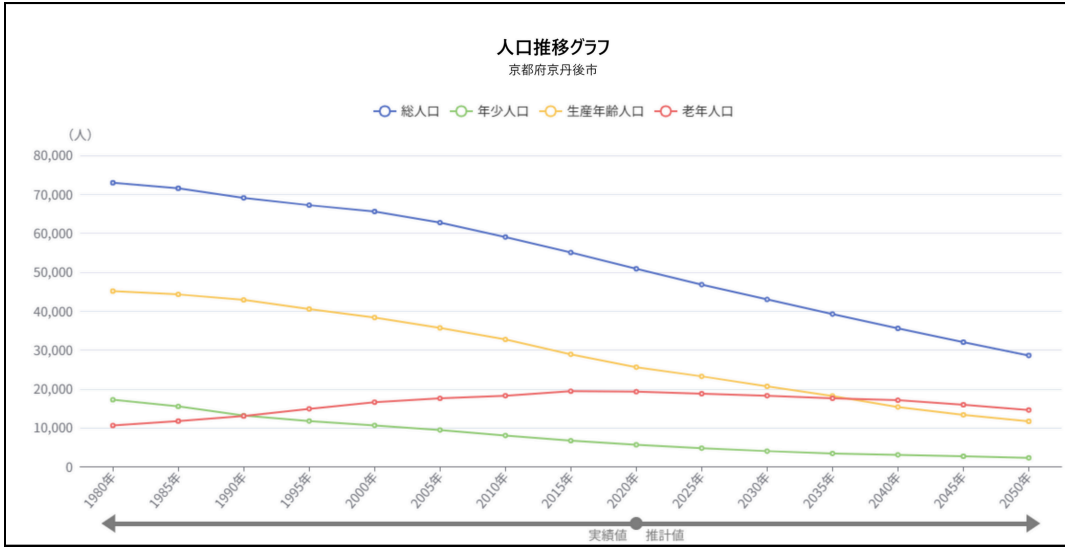


【1】人口構成と動態：地域の基礎体力

1.総人口の推移と将来推計（2020年）

- 2020年の人口は50,860人であり、2000年の65,578人に比べて大きく減少している。将来人口についても、今後も減少が続く見込みである。傾向としては、年少人口と生産年齢人口が減少する一方、老年人口は当面横ばいで推移すると見込まれる。



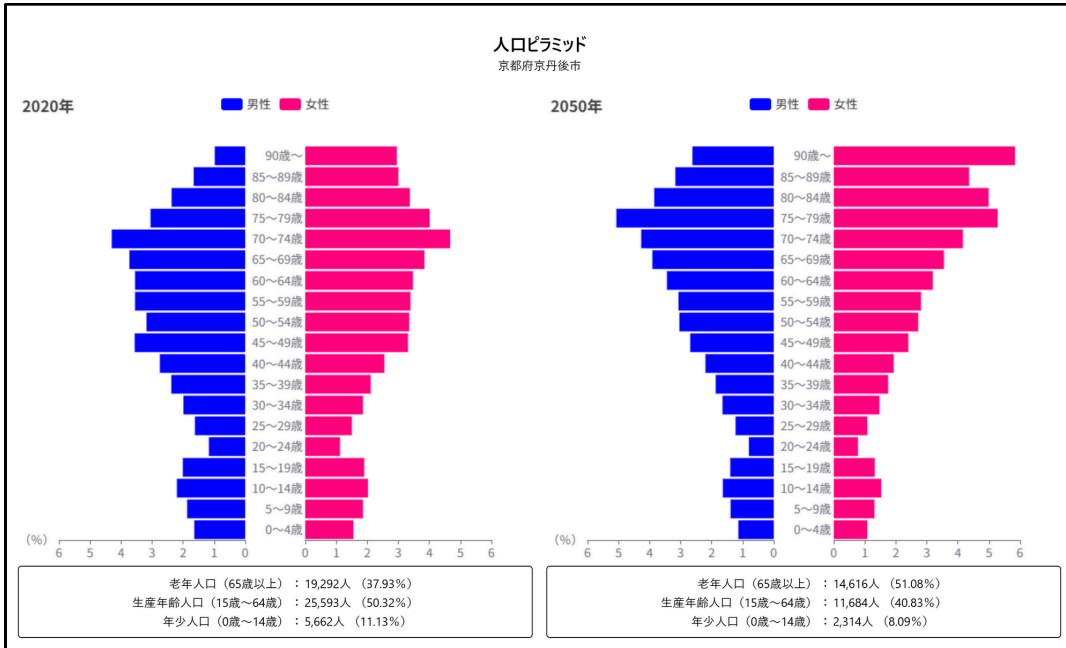
人口マップ > 人口構成分析 > 人口推移TAB

【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳。老年人口は65歳以上を指す。

2.人口ピラミッドの変化（2020年）

- 老年人口の割合は、2020年の37.93%から2050年には51.08%へと上昇する。一方、年少人口の割合は、2020年の11.13%から2050年には8.09%へと減少する。



人口マップ > 人口構成 > 人口ピラミッドTAB

【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

※国勢調査の2020年と2050年を並べて比較表示している。

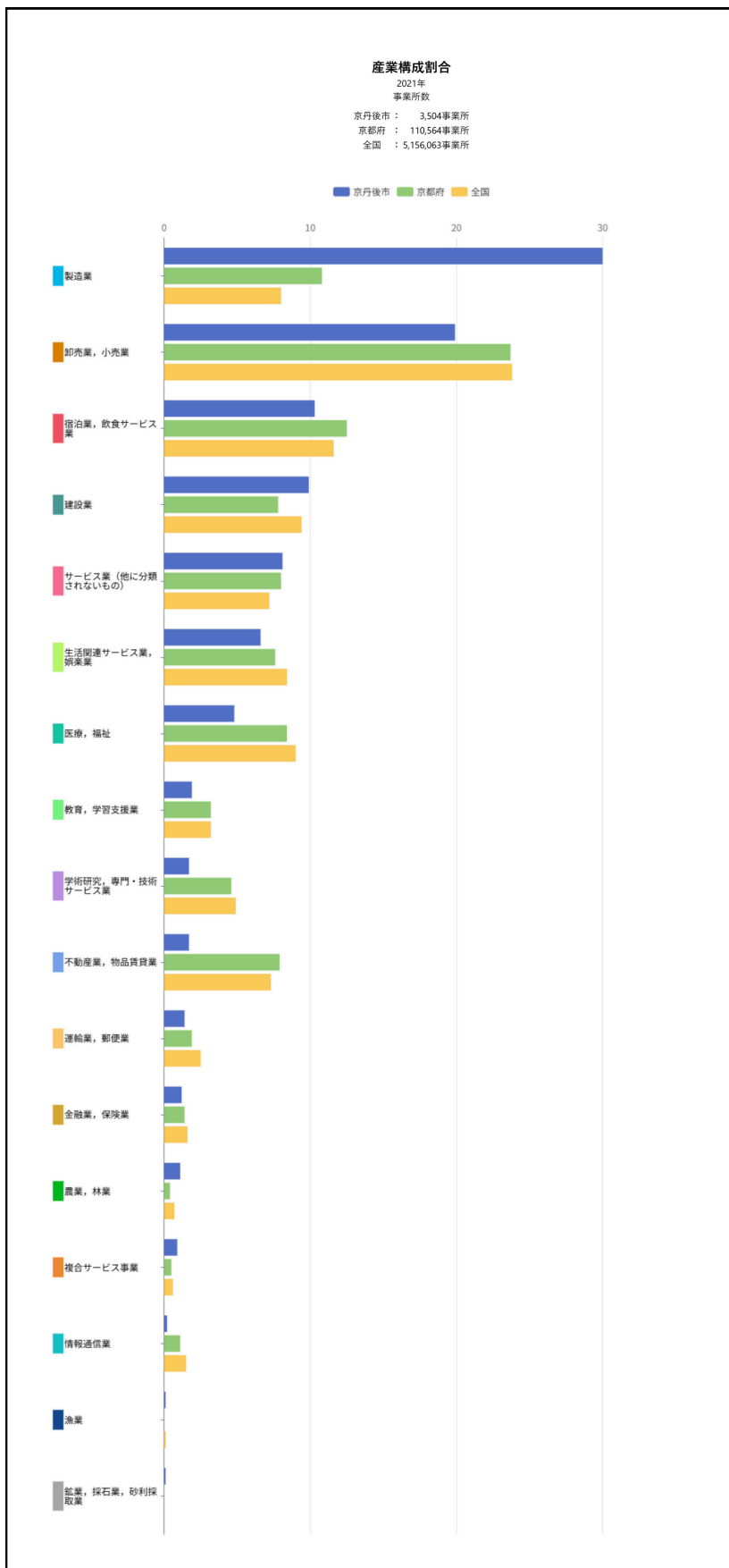
※高齢化率：65歳以上の割合を数値で記載。医療・介護需要の増大を示唆します。

※若年層：0～14歳人口の割合から、将来の持続可能性を評価します。

【2】 産業構造：地域の稼ぐ力

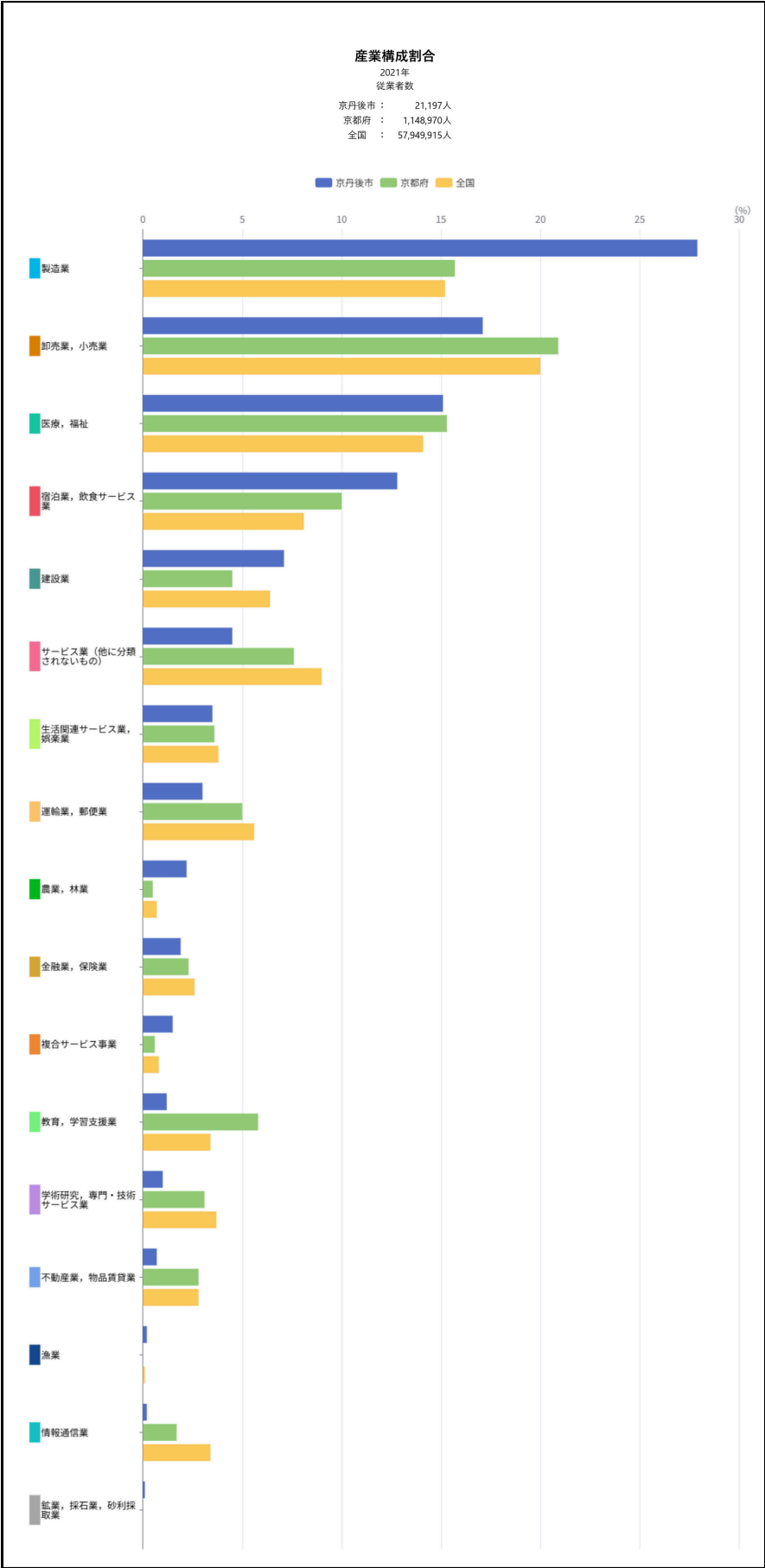
1. 産業構造の全体像（事業所数、2021年）

- 業種別に地域の事業所数をみると、最も多いのは製造業で1,051事業所である。構成割合は30.0%を占め、京都府や全国平均と比べて大幅に高い。
- 2番目に多いのは卸売業・小売業で698事業所である。構成割合は19.9%で京都府・全国平均より低めである。



2. 産業構造の全体像（従業員数、2021年）

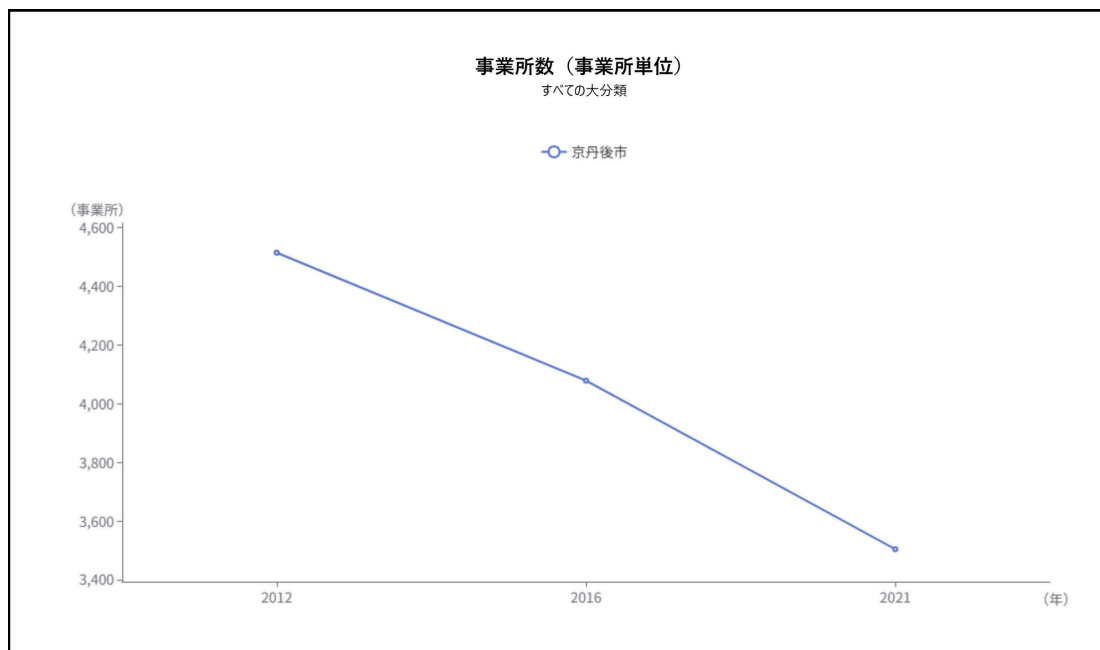
- 業種別に地域の従業員数をみると、最も多いのは製造業で5,921人となっており、構成割合は27.9%を占めている。
- 2番目に多いのは卸売業・小売業で3,624人となっており、構成割合は17.1%を占め、地域の雇用を支えている。



産業構造マップ > 産業構造分析 > 産業構成TAB
【出典】総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」、総務省・経済産業省「経済構造実態調査（産業横断調査）」

3.産業構造の全体推移（事業所数、2021年）

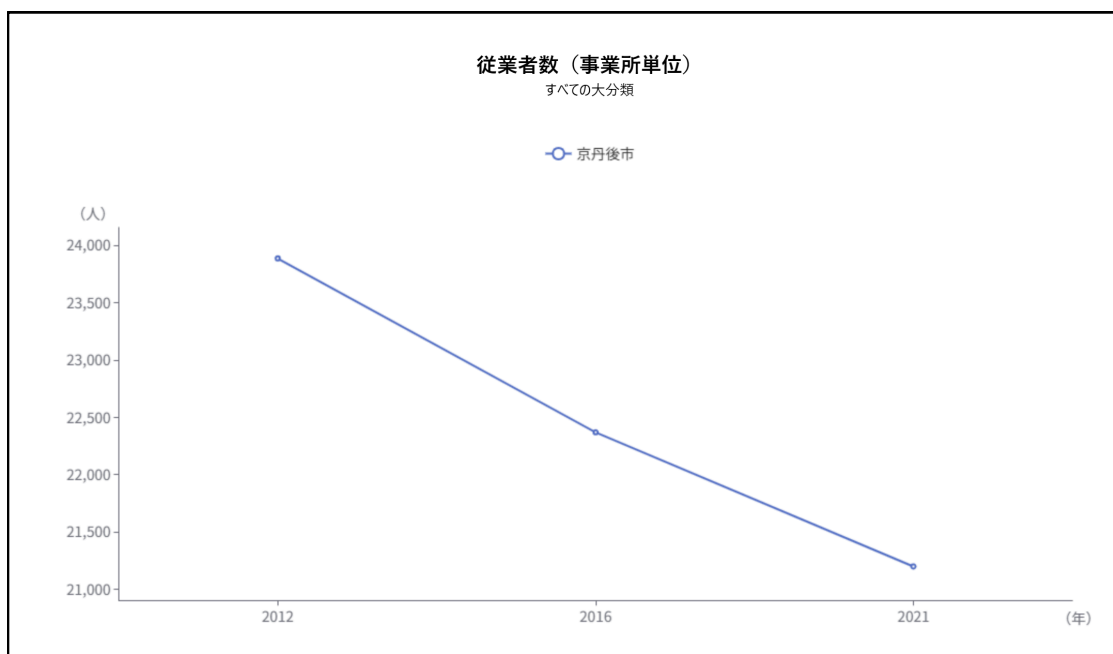
- 2021年の事業所数は3,504であり、2012年の4,515から減少している。近隣の与謝野町も同様に減少傾向である。
製造業⇒1,626事業所(2012年)→ 1,051事業所(2021年)
卸売業・小売業⇒857事業所(2012年)→ 698事業所(2021年)



産業構造マップ > 産業構造分析 > 推移（全産業）TAB

4. 産業構造の全体推移（従業員数、2021年）

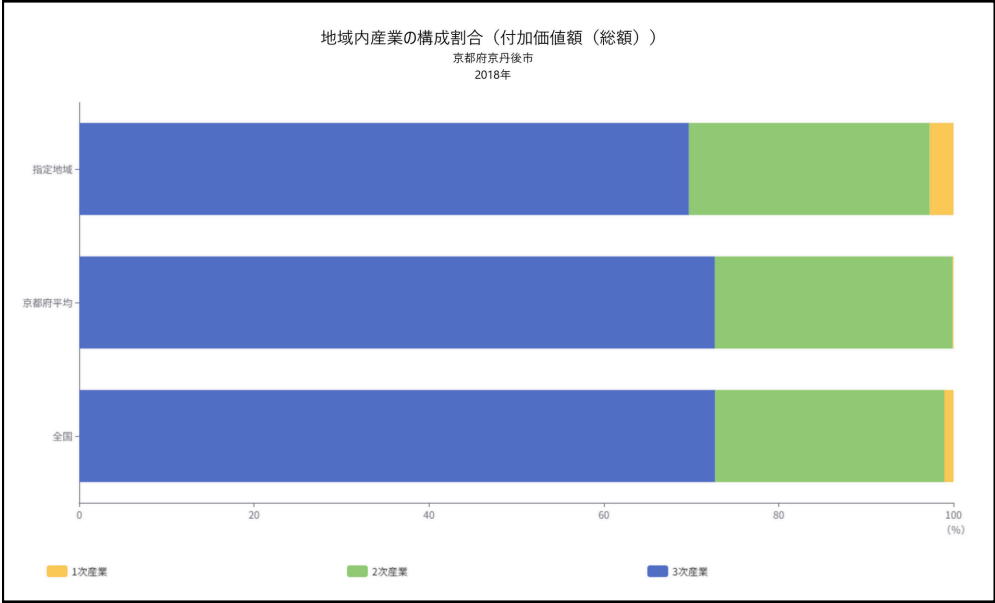
- 2021年の従業員数は21,197人で、2012年の23,886人から減少している。近隣の与謝野町においても、従業員数は大幅に減少している。



産業構造マップ > 産業構造分析 > 推移（全産業）TAB

5.産業別付加価値額の構成（2018年）

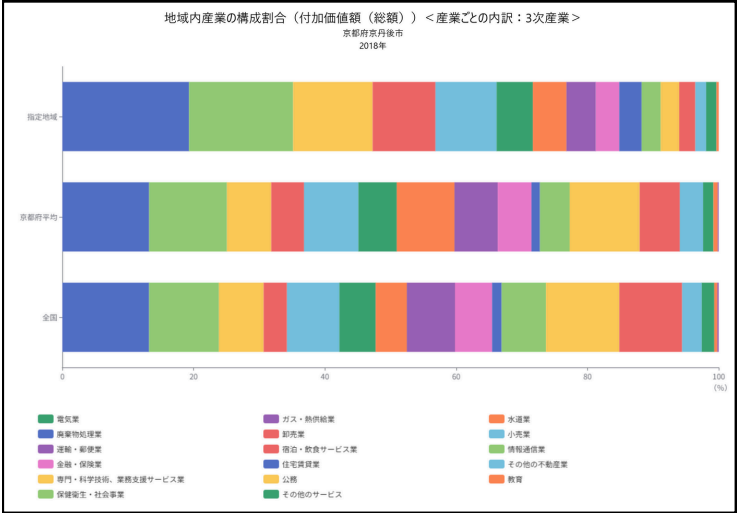
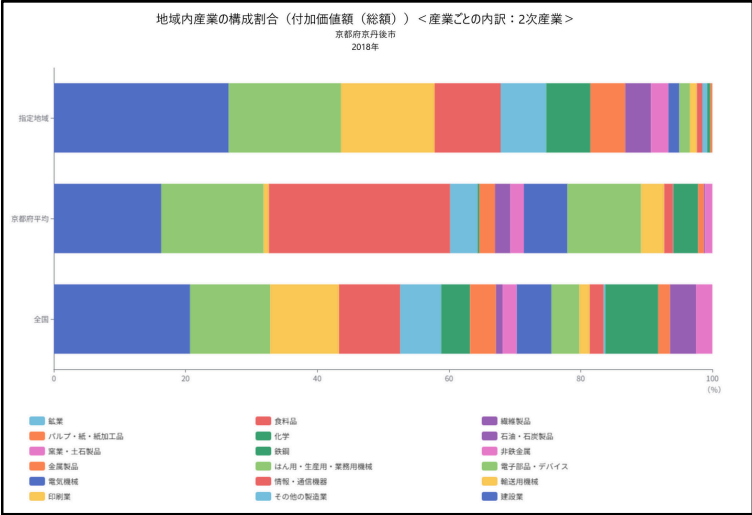
- 地域の産業の構成割合を京都府及び全国と比較したグラフである。比較では地域の3次産業が69.7%、2次産業が27.6%は、京都府の3次産業が72.7%、2次産業が27.2%、全国の3次産業が72.7%、2次産業が26.2%と比較しても、差異は少なく標準的な構成の割合である。



地域経済循環マップ > 生産分析 > 地域内産業の構成を見るTAB
【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）託作成）

6.産業別付加価値額の構成（2018年） 産業ごとの内訳

- 地域内の二次産業における構成割合は、「建設業」が26.6%で最も高く、ついで「はん用・生産用・業務用機械」が17.0%、「輸送用機械」が14.2%となっている。地域の二次産業における付加価値額の総額は456億円である。
- 地域内の三次産業における構成割合は、「住宅賃貸業」が19.3%で最も高く、ついで「保健衛生・社会事業」が15.8%、「公務」が12.1%となっている。地域の三次産業における付加価値額の総額は1,154億円である。



地域経済循環マップ > 生産分析 > 地域内産業の構成を見るTAB
【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）※
※稼ぎ頭の特定: 従業者数だけでなく、「金額ベース」で最も稼いでいる産業を順に3つ挙げています。
※構造的特徴: 第2次産業（製造業）主導型か、第3次産業（サービス業）主導型かを分類します。

【3】 地域経済循環：お金の流れ

1.地域経済循環図（2018年）

- 京丹後市は、1,655億円の付加価値を生みだしている。その付加価値は、市外との流出入により差引され2,213億円が市内に分配され、支出に回っている。
- 市内に支出された金額は1,655億円。地域内の所得2,213億円より少なく、稼ぎが市外へ流出している。

地域経済循環分析

2018年
指定地域:京都市京丹後市

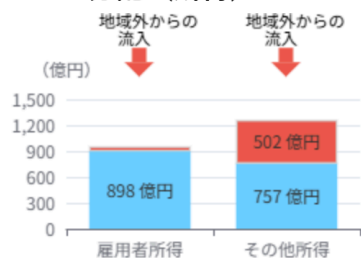
地域経済循環率

74.8%

所得への分配

1,655

分配（所得）

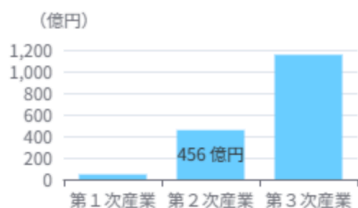


[詳細を見る](#)

所得からの支出

2,213

生産（付加価値額）

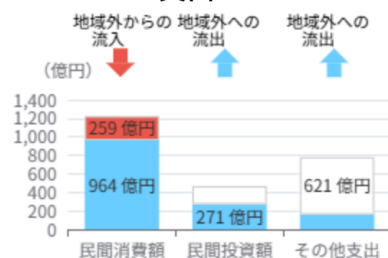


[詳細を見る](#)

支出による
生産への還流

1,655

支出



[詳細を見る](#)

地域経済循環マップ > 地域経済循環図

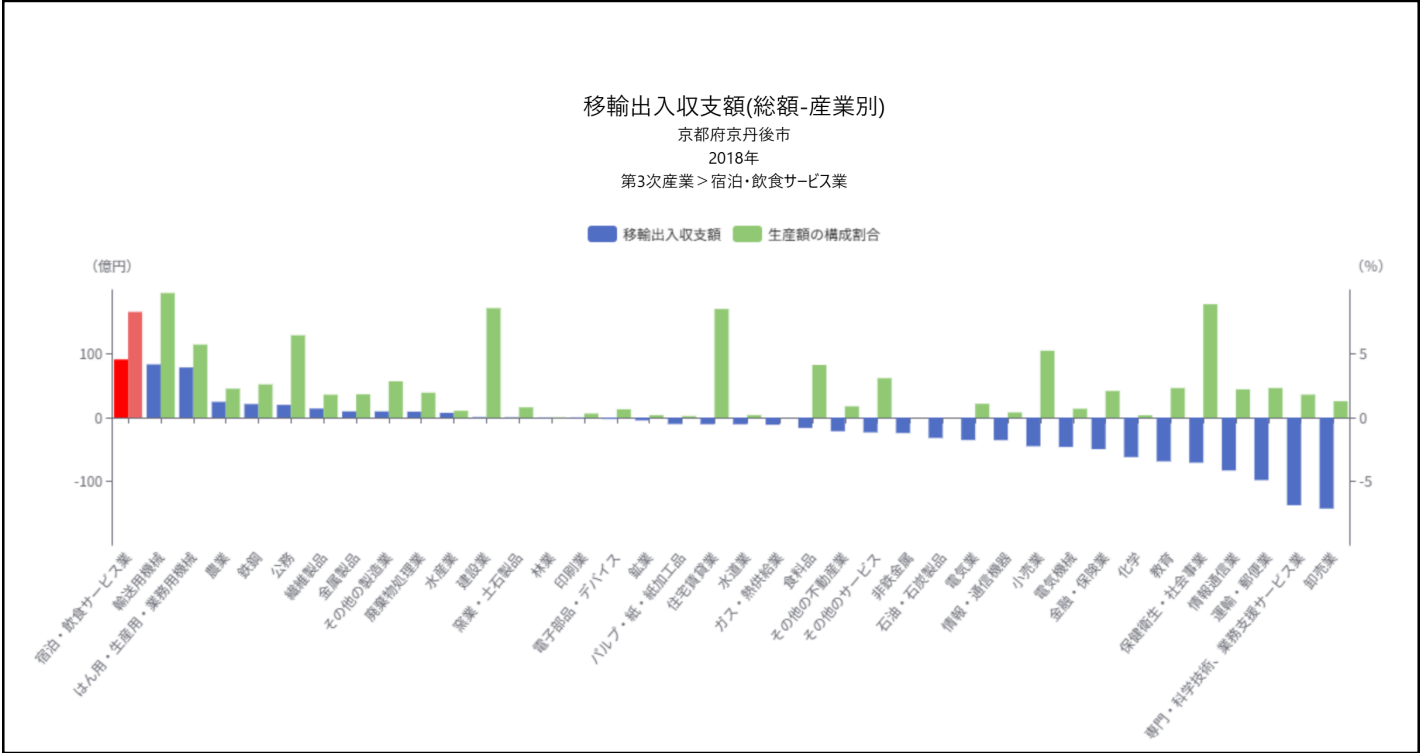
【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

※地域内の活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて再び地域内に還流する。この流れを示したものが地域循環図である。

※地域経済循環率: 100%を超えていれば外貨を獲得できており、下回っていれば地域外への依存度が高い状態を示す。

2.移輸出収支額（生産分析、2018年）

- ・ 宿泊・飲食サービス業は移輸出入収支額がプラス91億円で、最も域外から資金を獲得している。一方、卸売業は移輸出入収支額がマイナス143億円となり、最も域外への資金流出が大きいことがわかる。



地域経済循環マップ > 地域経済循環図

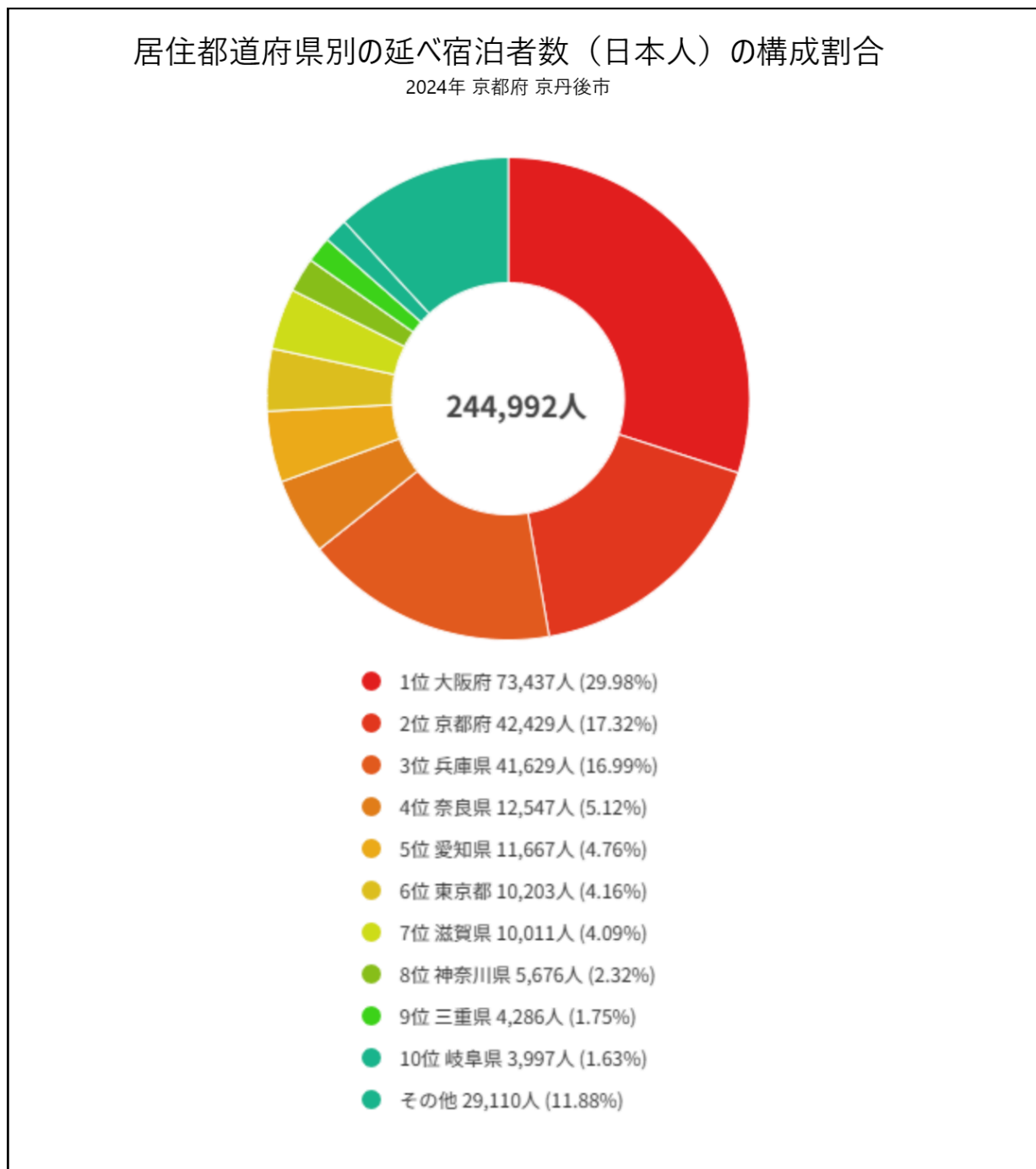
【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

※移輸出入収支額とは、域外からの（移出・輸出に伴う）収入額から域外への（移入・輸入に伴う）支出額を差し引いたものである。プラスの産業は域外からお金を獲得している産業、マイナスの産業は域外にお金が出ていることを示す。

【4】観光・交流人口：外からの活力

1.観光客の属性（2024年）

- 居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフでは、大阪府が29.98%で最も多く、京都府が17.32%でこれに続いている。近隣府県（京都・大阪・兵庫）からのマイクロツーリズムが多いことが確認できる。

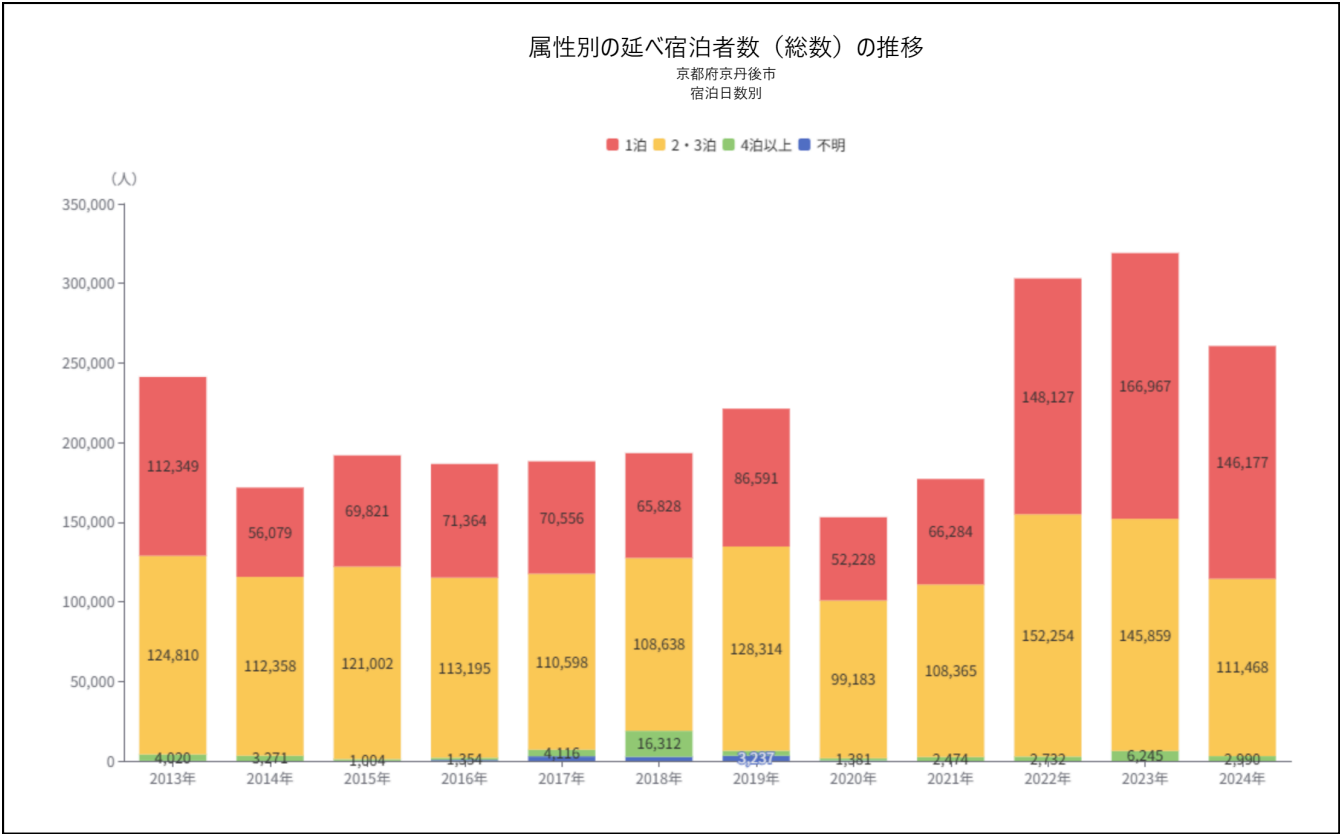


観光マップ > 宿泊者分析 > 居住都道府県別に見るTAB

【出典】観光予報プラットフォーム推進協議会

2.観光客の属性（2024年、宿泊日数別）

- 宿泊日数別では、1泊が146,177人、2～3泊が125,964人、4泊以上が2,990人となっている。日帰り来訪者は増加傾向にあり、宿泊を伴う観光は減少傾向にある。



観光マップ > 宿泊者分析 > 属性別に見るTAB
【出典】観光予報プラットフォーム推進協議会

作成：京丹後市商工会

この経済分析は「RESAS」を活用しています

〒627-0012 京丹後市峰山町杉谷836-1
TEL:0772-62-0342 FAX:0772-62-3553
URL: <https://kyotango.kyoto-fsci.or.jp/>